

令和4年度 施策評価シート

施策の大綱	2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実	評価担当者
基本施策	(3) 高齢者の地域生活支援の充実	健康福祉部長 小林 恵太
目指す姿	高齢者が、必要な介護・福祉サービスを受けながら、住み慣れた地域で安心して暮らしています	
関連する分野別計画	亀山市高齢者福祉計画	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	
SDGs推進の考察	生活支援体制の整備や介護予防に取り組むとともに、医師、看護師等のコメディカ、介護職による在宅医療・介護連携や認知症施策を推進するなどし、高齢者が地域で安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。また、サロン活動等で、仲間づくりや生きがいづくり、社会参加を進め、地域における見守りや支え合いの活動や、シルバー人材センターを支援し、高齢者の就職機会の確保を図っている。

■関連する主な事業

(単位: 千円)

施策の方向	事業名	上段: 予算額	実績・成果等
		下段: 決算額	
①	介護保険地域支援事業 (総合事業)	15,268	介護予防・生活支援サービス事業と一般介護予防事業を実施し、高齢者が介護予防に取り組むことができ、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援した。
		14,668	
①	介護保険地域支援事業 (任意事業)	18,425	家族介護支援事業や成年後見制度支援事業や認知症サポーターの養成等を実施し、在宅で支援を必要とする高齢者やその家族の負担を軽減することが出来た。
		17,524	
①	地域包括支援事業 (社会保障充実分)	27,997	在宅医療と介護の連携提供体制の強化や、生活支援コーディネーターを配置し生活支援体制の整備、認知症施策を推進するなど、地域包括ケアシステムの推進に向けて取り組んだ。
		23,179	
③	団体支援事業 (在宅高齢者介護支援事業)	2,219	25の老人クラブに補助を行い、高齢者の知識及び経験を生かした地域を豊かにする社会活動や生きがいと健康づくり活動を促進することができた。
		1,901	
③	福祉事業 (在宅高齢者介護支援事業)	2,210	1,570人の障がい者控除対象者認定を行うとともに、住宅修繕1件を行い、在宅高齢者の安全・安心な生活に寄与することができた。
		2,088	
③	給付事業 (在宅高齢者介護支援事業)	1,215	敬老祝金を248人に支給し高齢者の長寿を祝福するとともに、22人(3月末時点)の賠償保険の契約者となり、2件の日常生活用具(電磁調理器)を給付し、介護者の負担軽減を図った。
		1,214	
③	一般事業(高齢者タクシー料金助成事業)	32,351	タクシー券を128人に助成し、対象者の外出の支援と社会参加の促進を図ることができた。
		28,081	
③	地域団体支援事業 (シルバー人材センター)	11,400	シルバー人材センターを支援することで、高齢者の就業機会を提供し、生きがいの充実や健康の維持・増進を図ることができた。
		11,400	
③	害虫駆除対策費	770	条件に合致する依頼者世帯の蜂の巣の駆除・撤去をすべて実施した。
		748	
④	一般事業(地域介護・福祉空間整備事業)	14,923	認知症高齢者グループホーム2施設へ補助をおこない、防災体制の強化を図ることができた。
		14,883	

太字: 主要事業

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値	
				R4	R5	R6	R7		
1	かめやまホームケアネット登録者数(累計)	人	130	R2	205				320
2	総合事業で高齢者に通いの場を提供する地域の団体等の数	団体	115	R2	102				120
3	認知症初期集中支援チームの高齢者及びその家族への支援件数	件	24	R2	52				50
4									
5									
6									
7									
8									

■ 市民アンケート調査

項目	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 高齢者が生きがいを持って安心して生活できる環境が整っている	重要度 1.24 満足度 ▲ 0.53			令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、次年度に考察します。
2 高齢者への介護サービスが充実している	重要度 1.34 満足度 ▲ 0.05			
3	重要度 満足度			
4	重要度 満足度			

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 地域包括ケアシステムの推進	高齢者が安心して地域で生活できるよう、在宅医療等ニーズに応じた医療・介護サービスを提供できる体制を強化しており、生活支援サービスの体制整備を継続する。
② 介護予防の推進	高齢者が気軽に参加できる活動の場づくりを進め、地域における自助・互助・共助の活動を支援しており、今後は、保健事業と介護予防の一体的な取り組みを推進する。
③ 高齢者の生活と生きがいづくりの支援	サロン活動等で、仲間づくりや生きがいづくり、社会参加、地域における見守りや支え合いの活動を支援しており、今後は、高齢者の多様な就職機会の確保を図っていく。
④ 認知症高齢者等対策の推進	認知症に関する知識の普及啓発と早期発見・治療の重要性について周知しており、今後も地域での認知症への理解促進を図りつつ、認知症の人や家族を支援していく。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

地域包括ケアシステムの推進については、亀山医師会、市立医療センター等医療職や地域包括支援センター等の介護職による多職種連携により、在宅医療連携や認知症本人や家族へ支援を進め、講演会の開催や広報等で市民理解や周知を図ることができた。介護予防の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者フレイル予防支援に電話や案内通知などで取り組んだが、介護予防教室の中止等を余儀なくされた。保険事業と介護予防の一体的実施の強化が必要である。高齢者の生活と生きがいづくりの支援については、高齢者の相談等に対し、基幹包括支援センター及び地域包括支援センターを窓口にも重層的支援体制等により複合的な課題を抱える個別ケースの対応強化を図ることができた。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響からサロン開催回数が減少し、また高齢者の社会参加の促進や就職機会の確保を進めるため、シルバー人材センターやサロン活動、老人クラブなどの団体への支援を継続しているものの、地域団体や組織の縮小からその会員数が減少し、シルバー人材センターの登録者も同様に減少しており、前年度からの課題の解消に至っていない。住民主体の介護予防と生活支援を一体的に展開できる「ちょこボラ」の全市的な広がりに向け、継続的な体制づくりの支援が必要である。認知症高齢者等対策の推進については、認知症サポーターの継続的な養成に取り組む、市民への認知症への理解を広げるとともに、認知症初期集中支援チームを中心に認知症の高齢者とその家族を支援できた。更に成年後見制度の体制整備が図れたことから、認知症施策の強化に繋がった。

B

まずは進んだ

今後の展開方針

高齢者の増加や多様化・複雑化する相談内容に対応するため、地域包括支援センターと連携し、地域包括ケアシステムの深化・推進の取り組みを継続し、保健事業と介護予防の一体的実施や国保データベースを活用した地域特性に応じた介護予防の取り組みを進める。既に立ち上がった「ちょこボラ」を継続支援しつつ、生活支援コーディネーターとの連携により他の地域まちづくり協議会への働きかけを強化し、全市展開につなげる。シルバー人材センターのQOL支援事業の再構築を図るとともに、地域のサロンや老人クラブの活動を継続支援していく。認知症高齢者の権利擁護については、市長申立等の支援を行いつつ成年後見サポート事業の活用を進め、その制度の周知を徹底する。総じて、健康政策に係る各種事業を含め高齢者の健康寿命の延伸に繋げ、市民の自発的な健康への取り組み、また高齢者のフレイル対策を進める。